立川市緑化推進協議会の議事の要旨（要点）

（基本情報）

会議名称	立川市緑化推進協議会 第2回
開催日時	平成31年2月18日（月曜日） 午後1時30分～午後3時50分
開催場所	立川市役所 102・103会議室
次第	<p>1. 開会</p> <p>2. 議題</p> <p>（1）現行計画の施策の進捗について</p> <p>（2）市民アンケート分析結果について</p> <p>（3）緑の現況と課題及び計画改定の視点について</p> <p>3. その他</p>
配布資料	<p>資料1 現行計画の施策の進捗について</p> <p>資料2 立川市緑の基本計画に係るアンケート調査結果</p> <p>資料3 緑の現況と課題及び計画改定の視点</p> <p>資料4 今後のスケジュール（案）</p> <p>資料5 自治会加入率について</p> <p>参考資料1 立川市緑化推進協議会 第1回 議事録</p> <p>参考資料2 立川市緑の基本計画 現行計画の進捗状況に関する庁内調査票（H31.1）</p>
出席者	<p>[委員]</p> <p>会長 村上暁信、副会長 阿部伸太、森田寛臣、福澤マリ子、宗像ヨシ子、三鴨久恵、鈴木功、渡邊貴美、甲野毅</p> <p>松永満香、馬場宏、椎名豊勝 （敬称略）</p> <p>[事務局]</p> <p>志村秀己（基盤整備担当部長）、佐藤敦（公園緑地課課長）、西澤功典（緑化推進係係長）、瀧川巖（緑化推進係主任）、渡邊裕樹（緑化推進係主事）</p> <p>[コンサルタント]</p> <p>中尾理恵子、元永愛菜</p>
公開及び非公開	公開
傍聴者数	1名
会議結果	<p>2. 議題</p> <p>（1）現行計画の施策の進捗について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各施策を実施したことで得られた効果を整理する。 <p>（2）市民アンケート分析結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「資料2 立川市緑の基本計画に係るアンケート調査結果」について、以下の点の表記を見直す。

	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 世代に関する表記 (p. 15) ▶ 「緑の種類に着目したまとめ」の増やす「緑」、「公園」の項目の表記 (p. 36) ▶ 「緑の種類に着目したまとめ」の増やす「緑」、「商業地」の項目の表記 (p. 36) <ul style="list-style-type: none"> ・新しい公園の整備については、市民アンケートで重視しない結果となっているが、防災上の観点や生物多様性の観点から行政として必要量の確保を図るべき。 <p>(3) 緑の現況と課題及び計画改定の視点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地の問題に対して5年後の緑の基本計画改定を見越して、今回の計画に盛り込むかどうかにかかわらず検討は進めていく。 ・課題に、緑に対する関心度の向上を追加する。 ・計画改定の視点としてあげた「いかす」の捉え方、整理した課題に対する事務局の考えを示す。 <p>3. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局は、立川市の生物多様性の取組状況を、次回協議会で報告する。 ・次回の現地視察する場所を選定する際には、商業地の緑化が運用されている事例などを取り上げる。
担当	まちづくり部公園緑地課緑化推進係 電話 042-528-4363

平成 30 年度 第 2 回 立川市緑化推進協議会 会議録

開催日時 平成 31 年 2 月 18 日（月曜日） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 50 分

開催場所 立川市役所 102・103 会議室

出席者 [委員]

会長 村上暁信、副会長 阿部伸太、森田寛臣、福澤マリ子、
宗像ヨシ子、三嶋久恵、鈴木功、渡邊貴美、甲野毅

松永満香、馬場宏、椎名豊勝 (継承略)

[事務局]

志村秀巳（基盤整備担当部長）、佐藤敦（公園緑地課課長）、

西澤功典（緑化推進係係長）、瀧川巖（緑化推進係主任）、渡邊裕樹（緑化推進係主事）

[コンサルタント]

中尾理恵子、元永愛菜

1. 開会

2. 議題

(1) 現行計画の施策の進捗について

事務局より資料 1 の差し替え部分と内容の説明を行った。

(会長) 施策の進捗状況について、ご意見、ご質問があればお願いしたい。緑地の確保量について、計画策定時から 2020 年までの 20 年間で、30ha ほど減少している。減少した数値の内訳としては、主に生産緑地が減っているということによいか。他に増減の理由はあるか。

(事務局) 主に生産緑地が大きく減少している。

(会長) 資料 1 の p. 4 をみると、都市公園が 12ha ほど増加している。計画策定からの 20 年間の流れとして、生産緑地が 40ha、国営昭和記念公園がわずかに減少したが、都市公園が 12ha ほど増加し、全体として 30ha 減少した。ここから、生産緑地等の農地が減った一方、行政としては、十分かどうかの議論はあるにせよ、都市公園の整備を進め、一定の緑地を確保してきたと言える。

事務局の説明を補足すると、資料 1 の p. 2 で、施策の三本柱として緑を「まもる」、「ふやす」、「そだてる」が上げられている。国の緑地計画の基本的な考え方は、緑を「まもる」にあたる「緑の保全」と、緑を「ふやす」にあたる「緑の創出」の二本立てである。立川市の現行の緑の基本計画は、その両方にかかる「そだてる」が入っている。「そだてる」と「ふやす」は近い部分があるが、「まもる」は、ただ面積的に緑を守るだけでなく、文化的側面、歴史的側面などから、よりよい形で緑を育てていこうという意図があったと思われる。先ほどの計画の進捗をみると、「そだてる」の

分野は、実現のための施策が十分に出ていない。主な成果として緑化推進協力委員、公園等管理協力員の支援が報告されたが、本当の目的は、市民が緑を育てられたと認識できたかだと思う。委員の皆様には、緑を身近に感じられたか、緑を通じて立川市の歴史、文化が感じられたか、そのような考え方が醸成されたか考えていただき、そうでなければ、今回の緑の基本計画ではその点について見直しが必要かと思われる。

特にご意見がないようであれば次の議題に進む。最後にまとめてご意見をいただきたい。

続いて、議題（２）市民アンケート分析結果について、事務局より説明をお願いしたい。

（２）市民アンケート分析結果について

事務局より資料２の説明を行った。

（委員Ａ） 現行の基本計画の３つの柱は今後も継続するのか。

（会長） 継続するかどうかは、今後の協議の中で決めていく。

（委員Ａ） 緑を「ふやす」は、今後、実現が難しいと思われるため、表現を変えたほうがよい。

また、アンケートの回答に「ふつう」という表現がよく出ているが、どのように解釈するのか。どちらでもないと思えばよいのか。

（事務局） アンケートの評価は５段階評価であるため、「ふつう」は、どちらでもないに該当する。

事務局より、傍聴者が途中参加することを会長に報告、会長より承諾された。

（委員Ａ） 成果が上がっていないことが一番気になっている。原因の１つに地球温暖化があると思う。立川崖線の周辺では、温暖化により樹木の枝が成長し、去年より落ち葉が多く、周辺から苦情がきている。そのような原因に深く踏み込んで検証する必要がある。

（会長） 今回のアンケートで、崖線について調査しているか。

（事務局） 崖線に特化した設問は設けていない。

（会長） 崖線の緑の増減について、数値はわかるか。

（委員Ａ） 市や都で保全すれば保全されるが、私有地の場合は苦情があるとすぐに切ってしまう。

数年前にも、理由はわからないが、旧農業試験場の付近で大量に木を切っていた。マイナスの要素はすぐに目につく。

（会長） 次の計画につながってくるので、そういった情報は教えてもらいたい。

（委員Ｂ） ３点ある。p.15の「リタイヤ世代の『60代』」という表現は修正していただきたい。

続いて、p.32に「④生きものとの共存」とあるが、考え方の１つに、生物多様性に対する取組があると思う。庁内の取組状況を次回の協議会で教え

ていただきたい。

p. 35、「ふやす緑」の「公園」のまとめについて、矛盾していると感じる点がある。「公園の緑の豊かさ・増減に対する市民意識」について、「多いと感じており身近な公園は今後増えてほしい緑の上位に位置」とある一方で、今後の取組に対するニーズでは、「公園の量は市民のニーズはある程度満たされている」とある。市民意識と取組に対するニーズの記述が矛盾していると感じる。今の段階でご回答いただければ、次回までに教えていただきたい。

また、先ほど説明があったように、国営昭和記念公園は、有料のゾーンと無料のゾーンがある。有料ゾーンは多様な方が利用しているので、次回アンケートを実施する場合は配慮していただきたい。

(会長) 私も事前にアンケート結果を確認したが、非常に解釈が難しいと感じている。身近な公園のまとめにおいて、市民意識と市民ニーズに矛盾があるのではという点について、わかる範囲で回答する。p. 29の「重要視する立川市の取組」のグラフの上から2つ目、「新しい公園の整備」の項目に対する回答は、「重要」・「やや重要」の割合がさほど高くない。他方で、「今ある公園の再整備・改修」という項目は、「重要」・「やや重要」の割合が高い。ここから、新規に公園をつくるより、今ある公園の身近な場所としての再整備が望まれているという解釈だと思うが、いかがか。

(事務局) p. 35のまとめの、「公園の緑」に関する表記が不足していたと思う。p. 8、「お住まいの地域の緑の豊かさ」の単純集計のグラフは、「身近な公園」ではなく、「身近な公園の緑」の調査をしている。公園そのものに対する設問ではない。解釈として、身近な公園の緑は増えてほしいが、地域に新しい公園の整備は重視されていないとみている。p. 35の表の「ふやす緑」、「緑の豊かさ・増減に対する市民意識」の欄の表現を、「身近な公園は今後増えてほしい」から、「身近な公園の緑は」に修正する。

(委員C) p. 35に関連して、確かに、公園の量は他の地域に比べたらはるかに多く、市民のニーズを満たしていると思われるが、市民のニーズからの公園整備と防災の観点からの公園整備は分けて整理したほうがよい。市内には、密集家屋等の問題があり、防災上公園が必要である。

公園には多様な機能があり、時代とともに新しいニーズが発生している。現在も震災や火災の際の避難場所として公園整備がされているが、十分ではない。公園のそういった面にも理解を促さなければならない。新規に公園を整備しなくてよいと切り捨てると、今後、公園整備ができなくなる。

(会長) 非常に重要な指摘である。市民の方から要望がなくても、防災や生物多様性の観点は計画に組み込む必要がある。市民の方の要望は大事だが、それ以外の点ともバランスをとっていく。今回は事務局からは、アンケート結果を報告していただいているため、そういった視点は少ないが、皆さんからご指摘いただいてバランスを取っていききたい。

(委員D) 先ほども指摘あったが、アンケートで、「ふつう」という回答の割合が多

い設問がある。事務局では、「どちらでもない」と解釈しているが、アンケートに回答する側、結果を捉える側も解釈に迷う。アンケートをとる時に工夫が必要だと思う。

また、アンケートの全体の回答数は 663 件だが、アンケートの項目別にみると、母数が非常に少ないものもある。すべて割合表記となっており、母数の違いを考慮して結果を捉えなければならない。さらに、グラフによって軸の最大値が異なっている。棒グラフで見た時に数値を正確に捉えにくいのではないかと疑問に思った。

アンケートは、市民の方からは防災に関する様な回答は少なかったが、公園には避難場所としての機能もあり、そういった面も市民の方に理解してもらう必要がある。

「そだてる」という点では、人口減少で身近な公園や空き地に花をそだてていただいていた方の数も減ってきている。その辺りも考慮する必要がある。

(会長) 「そだてる」は、今回の計画の中でも重要な点になる。

「ふつう」という回答は、「関心がない」ということかもしれない。そうならば、関心度がない層が多いことになるので、問題である。

(委員 E) p. 35 の『『ふやす』緑』の「商業地（企業地）」について、「今後の取組に対するニーズ・課題」に「民有地（企業地）より公共空間（道路、公共施設）の緑化が期待されている」とある。アンケートに回答する側は、公共空間は当然取り組まれると考えるが、企業に対してどの程度求めて良いか分からないのではないかと。決して企業地の緑化を求めているのではない。

環境局でも緑化計画書の届出の制度がある。立川市では大規模な商業施設の計画もあり、そういったところの緑化を推進していきたい。一緒に取り組んでいけたらよい。

また、生物多様性の取組も、環境局では平成 24 年から「緑施策の新展開」として緑の量をふやす、質を高めるという点での取組も進めている。

(会長) 資料 1 の p. 35 の表現は見直していただきたい。

(委員 C) 立川市はまだ発展する余地がある。商業施設や事務所はまだこれから建設されると考えられる。

民有地の緑、開発に伴う緑の取組について、国立極地研究所や国立国語研究所は、緑の量も多く、敷地の中が通れるようになっていて、比較的うまくいっているように思う。民有地も公共地も「そだてる」の意味を拡大すると、こういった場所も含まれるのではないかと。特に、旧市役所近くの共済病院周辺の開発が目玉になると思う。再開発における緑について、他市と違うあり方を検討する等、中身を詰めていった方がいいと思う。

(会長) 今、事務局の方で現地見学も計画している。成功事例を教えてくださいとよい。

(委員 C) 会長のご指摘にあったように、成功事例を取り上げて広げたり、深めたり

しながら進めた方が立川市にはあっているかと思う。

(委員 F) 立川市で「いきいきたちかわ出前講座」を実施している。その中に「立川の『緑』～『緑豊かな立川』をめざして！」という講座があるが、特にアンケート等で参加者の感想を聞いていない。統計的な話だけでなく、関心のある方がどう思っているか聞いてもよいと思う。

(会長) 今回は施策の進捗状況含めて、統計的な話となっているが、皆さんから情報をいただいて深堀していただけたらよいと思う。

(3) 緑の現況と課題及び計画改定の視点について

事務局より資料3を用いて説明を行った。

(会長) 1つ目の施策の進捗状況と2つ目のアンケート結果を踏まえて、課題のとりまとめと計画改定の視点を整理していただいた。今回の会議の全体についても、ご意見、ご質問等いただきたい。

(委員 A) 現行の緑の基本計画策定時の資料と見比べると、計画改定の視点が、時代とともに変わっている部分もあるが、前回と大きくは変わっていない。課題に対してもっと具体的なことを羅列してもらいたい。生産緑地の保護一つとっても、買い上げる、売る、市民農園として活用する、野菜の生産工場をつくる等様々な方法がある

(会長) 今回、事務局では、進捗と課題を整理したうえで、たたき台として利用することを意図して資料を作成している。不足している点、気づいた点があればご提案いただきたい。

今、委員Aからご意見あったように、農地に対して、情報を集めていく必要がある。2022年問題もあるが、対策に対する選択肢がいくつあるのか等、具体的な情報が必要である。また、今日の議論を踏まえ、防災の面からみて公園緑地の配置が適切な配置となっているか等、客観的な視点から評価し、今後、提示していただきたい。

(事務局) 課題につきまして、参考資料2で「まもる」、「ふやす」、「そだてる」について、各施策の細かい課題と進捗状況を取りまとめている。

崖線の緑の保全の話題がでていますが、ガイドラインに基づいて、東京都、近隣市町村と取り組んできた。一昨年から、土砂災害防止法に基づき、崖線が土砂災害特別警戒区域と土砂災害警戒区域に指定された。そのため、崖線の下部に防災上の対策が必要だが、個人では対応が難しくなり、市民から市に崖線の寄付、買取りの要望が上がっている。市内でも、防災に配慮しながらどのように崖線の緑を管理するか議論しているが、現在、議論が中断している。

(会長) ありがとうございます。

全体の議論に関係するが、計画で、財源が必要なことだけを目標にすると、予算の関係もあり、実現性が担保されないことがある。予算に左右されない方法もご提案をいただきたい。

(委員 C) 「課題」と「計画改定の視点」について、具体性が乏しい。立川市の場合

は、もう少し具体的な話ができる。先ほどの崖線の急傾斜地についても、用地買収、寄付をして、緑の確保をしつつ防災上にも配慮をするという視点で掘り下げるべきである。

(事務局) 具体的な対応策については、委員に意見を求めるということかもしれないが、コンサルタントが入っているので、意見を出してもらってはどうか。今回の計画は、都市計画マスタープラン、第四次長期総合計画後期基本計画と計画期間を合わせるため、5年間の計画となる。そのため、今回の計画は、ある程度将来を見据えるが、5年間でできることを考えていきたい。生産緑地については、5年後の改定のときに、アンケートを取るなど状況を把握したうえで検討をすることになると思う。

(会長) 最終的な方向性については5年後に決定するにしても、課題に対する議論は進めておいたほうがよい。

(委員C) データは収集しておくべきである。ここから導き出すものは5年後でよい。

(委員G) 立川市の農業委員会に所属している。私が農業委員会に所属したばかりの頃、農地は190haほどあったが、現在は170haであり、この4年間で20haほど減少した。2022年に生産緑地から特定生産緑地に移行する。その際に、生産緑地を解除された方が、マンションを建てる可能性が高いことが問題である。いかに農地を減少させないかを市民の目線で考えていただきたい。

(会長) 農地の問題は大変大きな問題である。地権者の意向が明確ではないため、まずは、データを把握したうえで、現地調査をしていくことになるかと思う。

(委員G) 地権者の意向は、ある程度都市計画課で把握していると思われる。

(委員B) 「計画改定の視点」に、「緑を『いかす』」とあるが、従来の計画にある緑を「まもる」、「ふやす」、「そだてる」の三本柱の上位にくる施策か。それとも、同じレベルに位置するもので、4つの柱をたてるものか。具体的な指標を定めて進めていこうという中で、施策の表題ばかりが増えると、抽象的で予算が付かないということになりかねない。

(事務局) 計画を改定するために必要な項目を、計画改定の視点として洗い出しているものであり、「まもる」、「そだてる」をやめるというものではない。

(委員B) 私が確認したいのは、「いかす」の下に3つの「まもる」、「ふやす」、「そだてる」がぶら下がるのか、それとも、「まもる」、「ふやす」、「そだてる」、「いかす」の4つになるのかということである。「いかす」は、今回初めてでたものなので、どうするのかを教えてください。資料には、「視点を追加する」となっている。従来の、「まもる」、「ふやす」、「そだてる」の並行のレベルで「いかす」という項目が追加され、その下に施策が連なるのか。

(会長) 事務局で、今まで「いかす」という視点が足りてなかったということだと思う。従来の施策の柱に追加することも考えられるし、「まもる」の中に

組み込むことも考えられる。今の段階で事務局に強い意向はなく、協議会での考え方を提案し、計画改定にいかしていくということだと思う。

(事務局) 事務局の基本的な考え方は、「まもる」、「ふやす」、「そだてる」を継承し、「いかす」は、3つの視点を貫くもので、それぞれの施策の継続性を担保する視点としてイメージしている。変えていく部分もあるが、施策として永続的に取り組んでいくための新しい仕掛けも必要と思っている。

(会長) どのように施策の柱に組み込んでいくかという検討は、次回以降を含めて検討を進めるということによいか。「いかす」という発想の必要性について意見があればいただきたい。

(委員A) 市民の関心度を高めるための施策を出す必要があると思う。

(会長) 関心度は、実際に課題としても見えているので付け加えてもらいたい。

(委員F) ヒートアイランド対策として、昨年、市からネットや種が配られた際には、あちこちでグリーンカーテンに取り組んでいた。今年も実施していただけたら、緑が増えたと感じる。

(会長) 先ほど、出前講座について指摘があったが、それぞれの施策の結果、どんな効果が得られたか、施策の進捗状況について、その後のフォローアップが必要である。後ほど付け加えてもらいたい。

(委員C) 「課題」に「適切な維持管理」として、倒木リスクへの対応、安全性の確保といったことがまとめられているが、管理者が日常的に取り組むべき当たり前のことである。こういったことが、計画の柱のように取り扱われるのは良くない。樹木の太木化によって得られることもある。基本的には、緑が増えることが善である、ただし反作用による倒木がある、という書き方をしてはどうか。

(委員H) 資料1「現行計画の施策の進捗」のp.3、「市管理公園の整備面積が目標の約3分の1にとどまっていることが要因」とあるが、これは端的にいうと予算によるものか。

(事務局) 当初の目標設定が達成の困難なものであったということもあるが、他の整備を進めたこともあり、これが現状と思っている。

(委員H) 今後は現実的な目標を掲げられたらよい。今、議論が拡散しているようだが、多少、意見の集約をし、次回の現地視察ができるとよい。

(事務局) 協議会の今後の進め方については、次回以降対応させていただく。

(副会長) 今回は、今後、5年間に対する計画である。まずは、現行計画の達成できなかった点にどう対応するか。次いで、今ある緑を減らさない、特に農地や屋敷林をどうするか。

課題や計画の見直しの視点は、今後、具体的な施策に関わってくるので、それぞれの立場で、あったほうがよい視点、次の5年間をどうしていくかという視点で見ていただきたい。

また、緑を「いかす」について、緑の扱い方として、「まもる」、「いかす」、「つくる」というような考え方もあると思う。完全に緑をそのまま「まもる」だけではなくて、うまく「いかす」、使っていくやり方と、緑が足り

ないところにつくっていく使い方がある。

課題の話は、今後の具体的な施策の内容に関わっていくため、次回までに市のスタンスを少し示していただけたい。

(会長)

時間が大分過ぎてので、ここで一旦切らせていただきたい。

ご発言いただけなかったご意見については、事務局の方にご連絡いただきたい。

3 その他

(事務局)

第3回以降の協議会は、会長との協議し、スケジュールを変更したい。資料4「今後のスケジュール(案)」をご覧いただきたい。現地視察の上、計画の改定を進めたほうがよいと考えたため、第3回を現地視察としている。第3回に予定していた骨子案の提示は、第4回に延期したいと考えているが、いかがか。

(会長)

前回までの議論で、現況を踏まえたうえで計画の検討を進めたほうがよいという意見があったため、現地視察の後、計画の骨子案を作成していく。

(事務局)

次回は、視察時間を1時間程度設ける予定である。次回は、4月頃に案内をお送りし、6月頃の開催を想定している。それに伴い、協議会は3時間で実施したい。場所の選定は、事務局で案を作成し、会長と協議の上、決定する。

現地の説明は、場合によっては樹林地などで活動されているボランティアの方にご説明いただきたい。場所を選定後に個別にご相談させていただく。

現地での説明が難しい場合は、視察後、市のHPにあるボランティア紹介のページを利用して、活動紹介したい。具体的な内容は、会長と協議の上決める。

2点目、第1回の協議会の補足として、資料5「自治会の加入率について」をお配りしている。平成30年4月1日の自治体加入率は41.4%で、平成10年と比較すると世帯数は1.3倍だが、自治体加入率は3割程度減少している。

3点目、第1回の委員報酬を、1月18日に振り込んでいる。不備があれば事務局までご連絡いただきたい。

4点目、今回も、皆様に議事録を確認していただく。議事録(案)として、皆様にお渡しするので、ご確認いただきたい。

(会長)

以上で、協議会を終了する。

以上